

第7期 第1四半期報告書

(平成12年7月1日～平成12年9月30日)



平成12年10月31日

株式会社 旅籠屋

会社名(定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名(英文商号)	Hatagoya & Company
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿3丁目3番4号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

当期の業績の概況

(1) 損益の状況

損益計算書 (単位：千円)

	前年度 第1四半期 H11.7.1～ H11.9.30	前年度 第2四半期 H11.10.1～ H11.12.31	前年度 第3四半期 H12.1.1～ H12.3.31	前年度 第4四半期 H12.4.1～ H12.6.30	今年度 第1四半期 H12.7.1～ H12.9.30	前年同期比
売上高	14,406	9,057	8,732	11,979	28,386	197%
営業費用	13,797	18,388	17,488	26,208	25,747	187%
営業損益	609	9,332	8,756	14,228	2,639	433%
営業外収益	4	283	80	7,760	12	
営業外費用	299	138	8	3,794	1,333	
経常損益	314	9,186	8,666	10,262	1,318	420%
特別利益	-	-	-	-	-	
特別損失	-	-	-	158	-	
法人税等	-	-	-	715	-	
当期損益	314	9,186	8,666	11,137	1,318	420%
前期繰越損益	45,982	45,982	45,982	45,982	74,659	-
当期末処分損益	45,669	55,169	54,649	74,659	73,341	-

期中平均 発行済株式総数	3,000 株	3,215 株	4,980 株	4,980 株	4,980 株	-
1株当たり当期損益	104 円	2,857 円	1,740 円	2,236 円	264 円	-
潜在株式調整後の1株当たり当期損益					247 円	-

営業費用については「那須店」「秋田六郷店」のオープンにともなうパンフレット作成費などにより、前年同期に比べほぼ倍増しましたが、売上高も3店舗そろっての営業となったため、前年同期に比べ倍増し、1,318千円の当期利益を計上することができました。

(2) 営業損益の部門別内訳

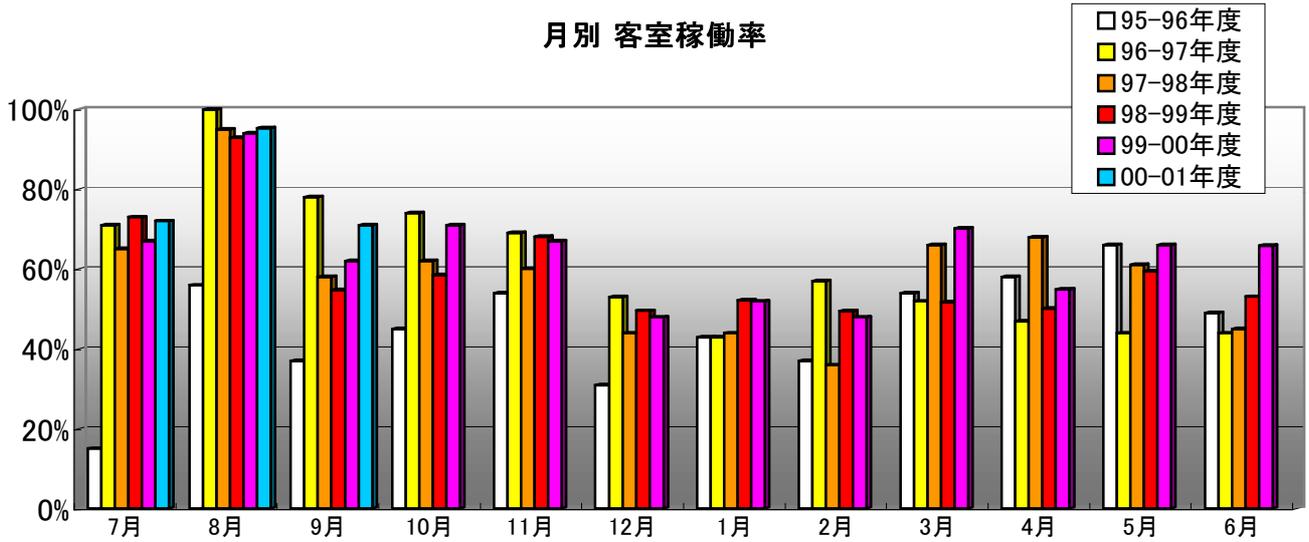
(単位：千円)

部門別の損益状況を把握するため、営業外収支を含め、すべての取引を部門別に分解して仕訳しております

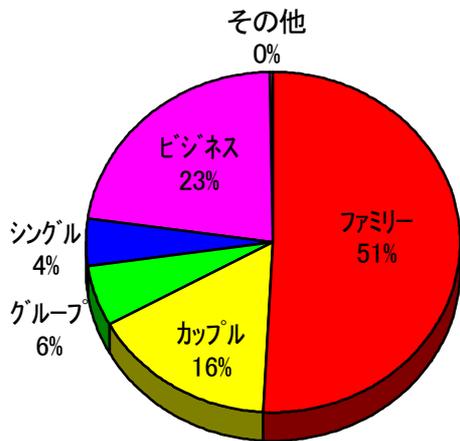
	本社	鬼怒川店	那須店	秋田六郷店	全社合計	鬼怒川店 前年同期
客室稼働率	-	79.8%	56.8%	27.3%	-	74.5%
客室単価	-	11,389 円	13,015 円	10,343 円	-	12,310 円
室料売上	-	14,726	8,160	3,113	26,000	13,492
室料外売上	498	1,711	149	27	2,386	683
売上合計	498	16,438	8,309	3,140	28,386	14,175
(償却前)費用合計	8,369	6,956	3,209	2,482	21,018	4,958
(償却前)営業損益	7,871	9,481	5,100	657	7,368	9,216
(償却後)営業損益	8,081	7,478	3,876	634	2,639	-
経常損益	8,999	7,469	3,481	634	1,318	-

減価償却前の営業損益については、3店舗とも利益を計上することができました。

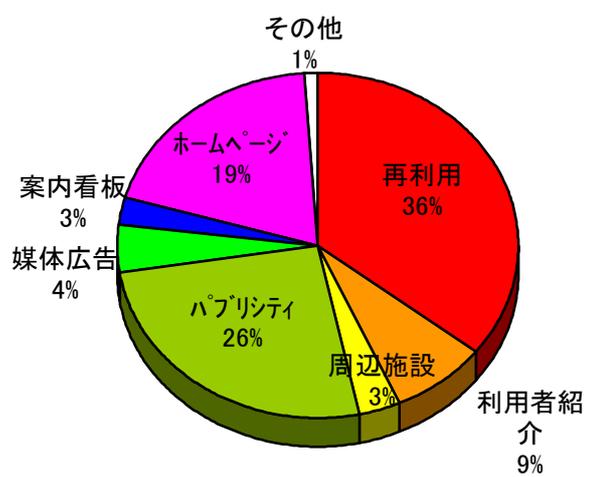
(3)「鬼怒川店」の営業状況



利用者構成(2000.7/1-9/30)



認知経路(2000.7/1-9/30)

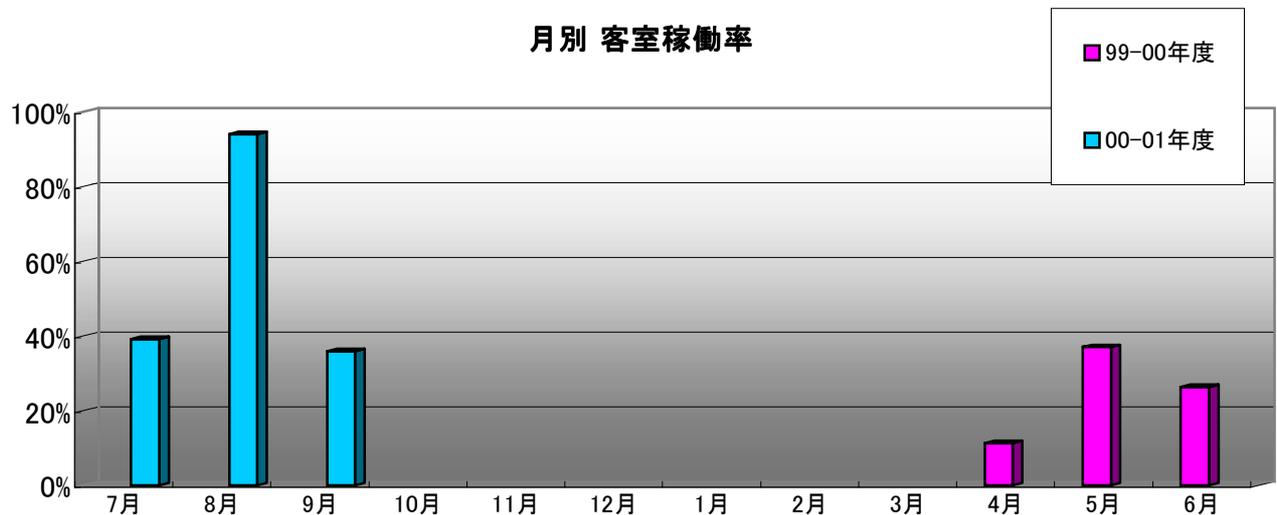


客室稼働率 7月に2室増室したにもかかわらず、3ヶ月とも前年同月を上回りました。

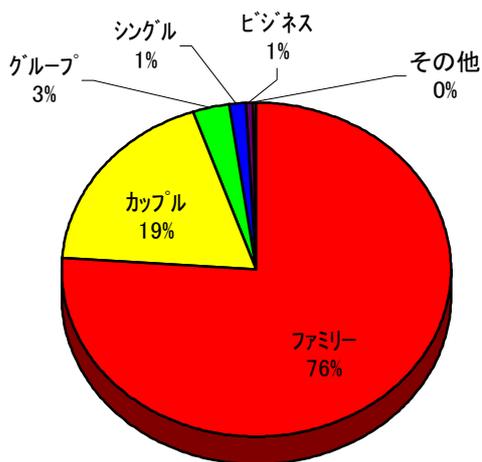
利用者構成 夏休みを含むため、ファミリー客が過半を占めましたが、ビジネス利用も目立ちます。

認知経路 新規客の1/3近くが、ホームページでの認知となっています。

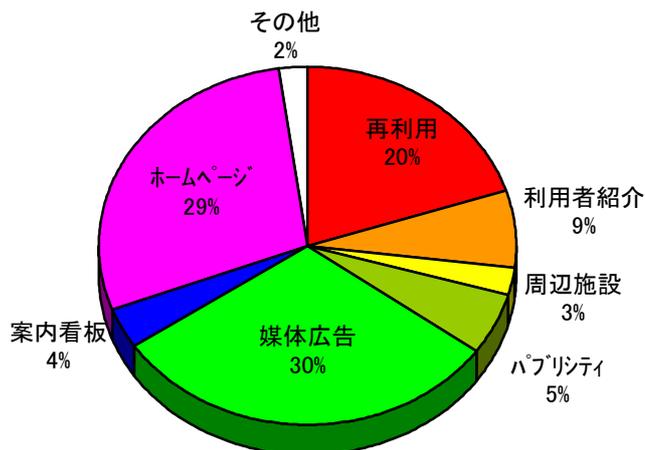
(4)「那須店」の営業状況



利用者構成(2000.7/1-9/30)



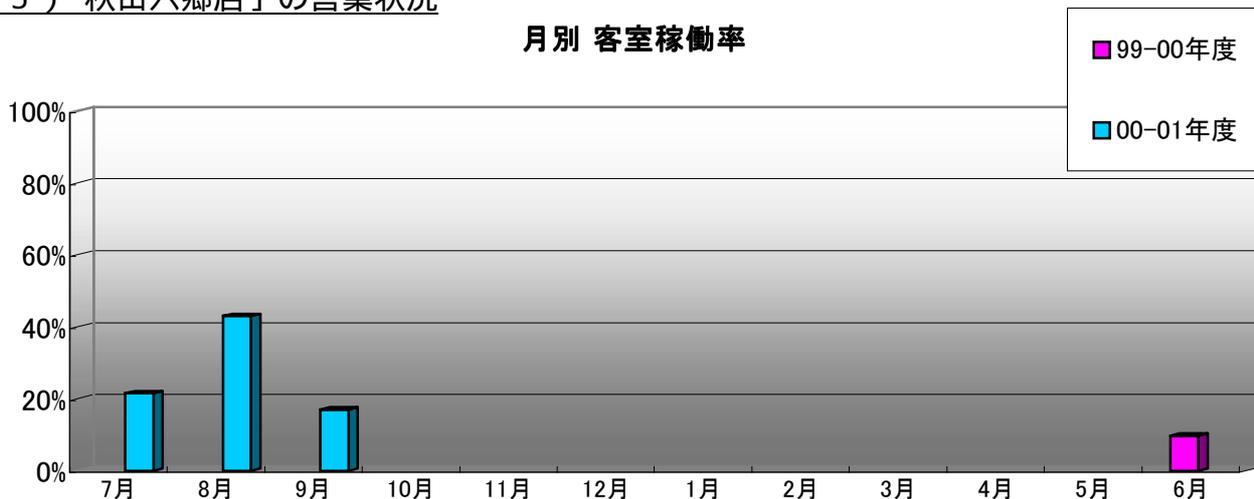
認知経路(2000.7/1-9/30)



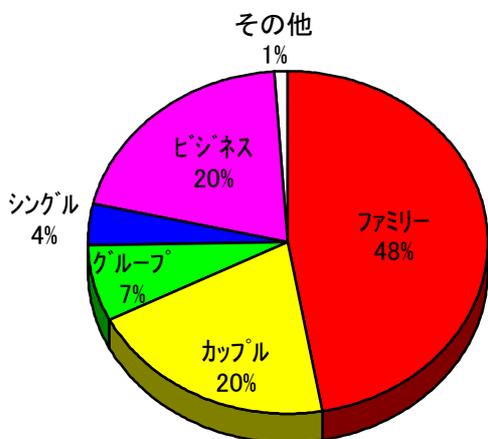
客室稼働率 観光客中心で平日の利用が少ないため、7月と9月の稼働率は40%以下となりました。
 利用者構成 ファミリー客が大半を占めており、ビジネス客の少ないのが目立ちます。
 認知経路 旅行誌への広告とホームページが多く、案内看板の割合が低くなっています。

(5)「秋田六郷店」の営業状況

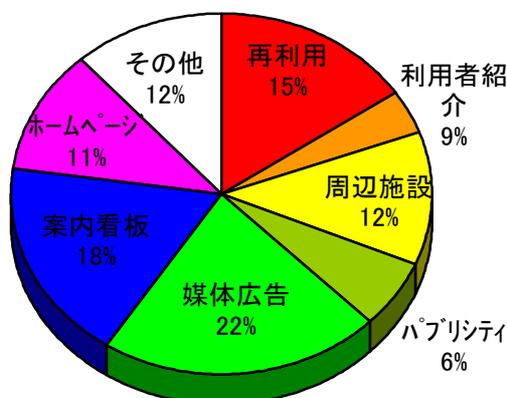
月別 客室稼働率



利用者構成(2000.7/1-9/30)



認知経路(2000.7/1-9/30)



客室稼働率 お盆前後を除いて満室になる日が少なく、7月と9月は20%前後にとどまりました。
 利用者構成 「鬼怒川店」と同様、週末や夏休みはファミリー、平日はビジネス客中心です。
 認知経路 国道沿いに大きな看板を設置しているため、案内看板を見ての利用が目立ちます。

(6) 財政状態の状況

貸借対照表 (単位 : 千円)

	前年度 第 1 四半期末 H11.9.30	前年度 第 2 四半期末 H11.12.31	前年度 第 3 四半期末 H12.3.31	前年度 第 4 四半期末 H12.6.30	今年度 第 1 四半期末 H12.9.30
(資産の部)					
流動資産					
現金預金	14,663	70,048	74,834	4,250	11,118
その他	219	164	139	9,424	8,435
流動資産合計	14,883	70,213	74,974	13,674	19,553
固定資産					
有形固定資産合計	114,811	142,760	174,731	288,080	292,050
無形固定資産合計	225	225	500	1,308	1,263
投資等	10,133	10,083	10,033	6,966	7,033
固定資産合計	125,169	153,068	185,265	296,355	300,347
繰延資産	-	7,418	7,309	6,456	5,649
資産合計	140,052	230,699	267,549	316,487	325,550
(負債の部)					
流動負債	321	1,154	1,856	27,123	26,161
固定負債	35,400	35,400	80,215	115,023	123,730
負債合計	35,721	36,554	82,071	142,146	149,891
(資本の部)					
資本金	150,000	249,000	249,000	249,000	249,000
剰余金					
当期末処分損益	45,669	54,855	63,522	74,659	73,341
(うち当期損益)	(314)	(9,186)	(8,666)	(28,676)	(1,318)
資本合計	104,331	194,145	185,477	174,340	175,658
負債資本合計	140,052	230,699	267,549	316,487	325,550
発行済株式総数	3,000株	4,980株	4,980株	4,980株	4,980株
1株当たり純資産	34,777円	38,985円	37,244円	35,008円	35,272円

(7) 財務諸表作成の基本となる事項

四半期財務諸表の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第 5 経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の財務諸表作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。なお、当該四半期財務諸表については、公認会計士の監査証明を受けておりません。

固定資産の減価償却の方法

各四半期の減価償却費は年間発生見積額の 1 / 4 に該当する金額を計上しております。

繰延資産の処理方法

各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の 1 / 4 に該当する金額を計上しております。

経過勘定項目

未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しております。

税金の計上基準

法人税および住民税・事業税・消費税は、計上を省略しております。

借入金等の表示

長期借入金および割賦未払金のうち1年以内返済予定額は、期末決算と同様に流動負債として表示しております。

(8) 会計方針の変更

該当事項はありません。

(9) 資金の状況

現預金の増減 (単位：千円)

	第1四半期 H12.7.1～9.30
期初現金預金残高	4,250
期末現金預金残高	11,118
四半期の増減	+6,868

借入金の増減 (単位：千円)

	第1四半期 H12.7.1～9.30
期初借入金残高	128,328
期末借入金残高	137,441
四半期の増減	+9,113

借入金の増加は、7月に朝日信用金庫より11,000千円の金融安定化資金融資（制度融資）を受けたことによるものです。なお、この資金は「鬼怒川店」の改装・増築工事費に充当いたしました。

当期の業績予想

当期の業績予想 (単位：千円)

	前期(実績) H11.7.1～H12.6.30	当期の予定 H12.7.1～H13.6.30
売上高	44,174	81,112
経常損益	27,802	20,779
当期損益	28,676	21,400

(1) 1号「鬼怒川店」について

前期の年間客室稼働率は、過去最高の63.9%となりましたが、今期も7月に2室増室したにもかかわらず前年同期の実績を上回る好調を維持しております。これは、オープン以来5年を超えリピーターが定着したことに加え、口コミによってビジネス客の平日利用が着実に増加していることによるものです。

利用者からの要望を参考に設備やサービス内容の改良・改善を続けてきたことも、その要因になっていると考えられます。この結果、オフシーズンの稼働率が上がって効率よく利益を生み出せる状況となっており、事業計画書で予想したとおり「鬼怒川店」単独で通期8,000千円の経常利益を計上できる見通しです。

(2) 2号「那須店」について

4月25日のオープンから約半年が経過しましたが、夏休みや週末は確実に満室になり、当四半期では大きな利益を計上することができました。ただし、明らかに観光客中心の利用になっているため平日に空室が目立ち、9月の稼働率は「鬼怒川店」の半分以下にとどまっております。

ビジネス客の利用を促すことが当面の課題であり、10月には、周辺幹線道路への大型誘導看板の設置や周辺企業へのPRを実施しております。

利用者の評価は高いため、こうしたPR活動の強化により、稼働率は着実に上昇し、予想どおり通期で3,200千円の経常利益を達成できる見通しです。

(3) 3号「秋田六郷店」について

「秋田六郷店」は、「鬼怒川店」「那須店」のような滞在型の観光地ではなく、しかも首都圏から遠く離れた地域のため、当初の予想通り苦戦しており、当四半期の客室稼働率は30%を下回る結果となりました。利用者の構成も9月においては40%がビジネス客で、明らかに他の店舗とは異なった特性を示しております。しかし、着実にリピーターが増えており、10月の稼働率は30%を超える見通しです。周辺企業へのPRも強化しており、楽観的な見通しを確信しつつある状況です。これは、アメリカのMOTELのような郊外の中継地型立地の可能性を示すものであり、今後の店舗展開においてきわめて重要な実績となります。

チェーン店の出店計画の進捗状況

(1) 用地の選定について

「旅籠屋」の知名度アップにともない、土地活用の引き合いを多く受けるようになっております。すでに、千葉の外房、富士五湖周辺、長野県、石川県などの用地を視察し、数件の候補地情報を確保しております。また、当社の初期投資負担を抑えて店舗展開を図るため、土地所有者を対象に「借上直営方式」や「運営受託方式」の事業プランを広くPRしております。

(2) 資金調達について

店舗展開を具体化するための最大の課題は、資金の調達にあります。当初、今秋にVIMEXにおける第2次公募増資を計画しておりましたが、すでに当社の株式が流通している中で多額の公募増資を行うことには困難が予想されるため、他の資金調達の方策と平行して実施時期を検討していくことといたしました。他の方策として、すでにベンチャーキャピタルなどと第三者割当増資についての協議を進めております。さらに3番目の方策として、土地活用あるいはロードサイドビジネスに関連する事業を行っている企業に業務提携を提案しており、複数の企業と検討を進めている状況です。年内に資金調達の目途をつけ、今年度末(2000年6月)までに数店舗の出店を実現したいと考えております。

その他

9月22日開催の第6期定時株主総会において、商号を、株式会社 旅籠屋本店より、株式会社 旅籠屋に変更いたしました。これは、本店が社名ではなく部門名であるような誤解を避けるとともに、商号を商標名に一致させ認知度のアップを図るためのものです。

以上